

きよみず



学校だより 学力特集号

北九州市立清水小学校
校長 中原 健治

学校教育目標

やさしさを持ち、たくましく生きる子どもの育成

〇めざす子ども像

- ・自分も他人も大切に、仲間とともに高まる子ども
- ・すすんで学び、主体的に考え判断する子ども
- ・ねばり強く最後までやりぬく子ども
- ・健康で安全な生活のできる子ども

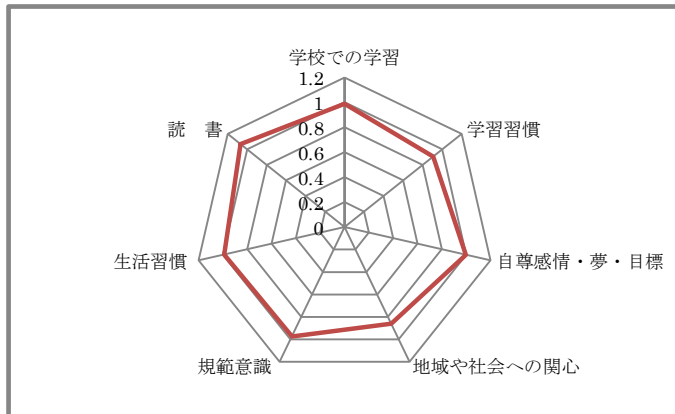
平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただければ幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語 A	全体的には全国平均をやや上回っており、特に「読むこと」領域の「目的に応じて文章の中から、必要な情報を見つけて読む」問題は、全国平均を7%上回り、かなり高くなっている。しかし、「話すこと・聞くこと」領域の「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合う」問題については、全国平均を下回った。何について話し合うのかめあてを具体的にもち、友達の発言をその観点から聞く態度を育てる必要がある。	上回っている
国語 B	全体の正答率は全国平均をかなり上回っており、A問題より得意なことがうかがわれる。「読むこと」領域の登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題は、全国平均を13.3%上回り、特に正答率が高かった。発言の意図を選ぶ問題の正答率がやや低かった。	上回っている
算数 A	全体的には、全国平均とほぼ同じである。領域別に見ると「数と計算」は、よくできていたが、「図形」にやや課題が見られた。「円を使った正五角形のかき方」の正答率が低かった。	同程度
算数 B	図形領域以外の領域で正答率が高い。全国平均に比べ割合（基準量と比較量の関係）をしっかりと捉えることができていた。計算の仕方が定着しているが、そのきまりを説明することに課題が見られた。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



- ・読書に親しんでいる児童の割合は全国平均よりも多く、読書活動の充実に取り組んできた成果のひとつではないかと考える。
- ・昨年の課題であった宿題の習慣は、身に付いてきており、きまりを守るなどの生活習慣も全国平均くらいに落ち着いている。ただし、家庭学習の時間が短く、「1時間より少ない」の児童の割合が多い。家庭学習の取り組み方について、職員の共通理解と学年に応じた系統的な取り組みの実施が必要である。
- ・授業では、話し合い活動が充実していると感じている児童が少ないという結果であった。児童が自分の考えをもつための工夫や「ペア学習から全体交流」など学習形態の工夫をすることで、授業改善を行う。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ◎学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝の活動を「ぐんぐんタイム」とし、特に火曜日と木曜日は全校一斉に算数科の基礎練習問題や国語科の漢字練習に取り組む。5校時前の10分を「のびっこタイム」とし、学力定着のための復習活動を積み重ねる。
- ◎子どもの理解を深めるための授業づくり
 - ・全校で学習モデルを研究実践する。「『めあて』づくり→自分の考えをもつ→ペア・グループ・全体で『話し合う』→『まとめ』→『振り返り』」という学習活動モデルを構築する。その学習の始めに、一人一人が「めあて」から学習の「見通し」をもつ段階を重視する。また、赤ペン指導を継続的に行い、学力を定着させるとともに、書画カメラや電子黒板等のデジタル機器およびデジタル教科書等を活用することで、学習中に子どもたちの視線や意識を集中させたり、学習内容の理解の手助けにつなげたりする。
- ◎「書く」ことを習慣化
 - ・学習の中で、「自分の考え書く」最後に「『振り返り』を書く」など書く習慣を身に付けるため、ノート指導を工夫し徹底する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・家庭学習時間の最低ラインのめやすを(学年×10分)程度とする。
 - ・「家庭学習の手引き」を構築し、学校と家庭で周知できるようにする。
 - ・懇談会やPTA理事会などの機会に「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の意義や取り組み方などについて伝える。
- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・児童質問紙の内容で重点的に取り組むものを抜粋して、全児童にアンケートを実施することで、課題を明確にし、職員の共通理解のもとで課題解決に取り組む。
 - ・学校だよりや学校HP等で結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。